

生駒南小・中学校の今後について 保護者向け説明会 意見、質疑応答部分 議事要旨

日時:令和4年11月6日(日) 午前10時~12時

場所:生駒南小学校 体育館

参加人数:26人

<意見>

生駒南小・中学校の今後を考える会議に、青山台からも南小中学校に通う子どもたちがいるにも関わらず、参加していない。新しく考える会の組織をつくと文章化されており、当然全自治会に関わることに、学校再編に関わる中身は、全部知らされていない。こういう動きを地域にも知らされないやり方でスタートされるのはおかしいと思っている。

南中学校の老朽化問題で、築51年経ってる古い校舎よりも、新しい校舎ができることについては賛成。綺麗な、設備も整った学校で教育を受けることは、親も子どもも非常に良いことだと思っているが、そこに学校再編が関わり、小学校と中学校の一貫学校という形で提起されたときに、今までの6・3制は否定されるのかと思った。今の教育の良いところ、素晴らしいところは、いっぱいあると感じている。北小中学校の様々な取組を成果だと言われたが、子どもたちが一生懸命取り組んできたことで、高学年が小学校1年生のクラスに訪問して本読みをすとか、これは既に小学校でやってることで、一つ一つ今の小学校の良いところ、小学校、中学校の頑張ってるところをやはり見ていただきたい。小中一貫という教育のあり方が、本当に良いものかどうか、まだ理解していない。今ある中学校の中身をより良くする、そのためには危険な校舎であると評価されれば、校舎の建て替えが必要で、小学校は小学校で、やはり直すところは直して欲しいという、今ある教育を大事にして欲しいという思いである。

<意見>

今日の保護者会の説明会に当たって、生駒南小・中学校の今後を考える会議の2回目の傍聴には行ったが、もう1回確認したくて、ホームページ開いてみたが、出ていなかった。こういう説明会がある時は、地域の代表、学校の代表の方たちが出てこられて、学校のあり方について有意義な発言があったり、どんなことが今検討されているかということを知る唯一の機会である。私たちが知る情報はそれしかないのので、是非、議事録を速やかに地域の方におろして欲しい、市民に知らせて欲しい。

【回答】

市ホームページに、生駒南小・中学校の今後を考える会議のページを立ち上げて、資料や議事録を載せている。1回目の議事録は掲載しているが、2回目については、今完成まで至っていない。出来次第、早急に掲載していくので、ご理解いただきたい。

<意見>

ホームページを探してみたが、すごくわかりにくく、もう少し保護者にわかりやすくしていただきたい。

【回答】

保護者の方に周知ということで、今後、市から各家庭にメールで、「会議がありました。この内容については、こちらをご覧ください。」という案内をさせていただきたい。

<質問>

老朽化ということで、建て直しを検討されているということだが、場所はどこになるのか。ここで建て替えをするのであれば、令和8年までかかるということなので、その間、通学路が変わるなど、通っている児童・生徒はどうなるのか気になる。

小瀬町在住なので、調整区域に入ることになるかと思うが、そうだと選択ができるようになるというお話だが、その選択をいつ保護者が決定するのかがということを知りたい。

【回答】

この小中学校の敷地を使っての工事になる。どの学校も、建て替えや改修の時期に当たる子どもたちには、グラウンドが狭くなってしまう部分をご理解、お願いせざるを得ない。グラウンドの中に建て始めるかどうかは、今全く決まっていないので、今後、土地を利用するにあたって、法律に違反しない形でどう建てるのが一番良いかを検討していき、工事を進めていく予定になる。

調整区域については、基本的に小学校入学の時点、中学校の入学の時点となる。その時点で判断していただいて、調整区域の方は、南中学校を選択されるか、大瀬中学校を選択されるかということになる。

<質問>

母校がなくなるのが、寂しい気持ちで参加した。今、子どもが少なくなっているのに、こういう形での合併は仕方ないのかと思っているが、メリット、デメリットを両方知った上で、見守っていきたいと思っている。今も起きているデメリットは何かあるのか、教えていただきたい。

【回答】

施設一体型の中での小中一貫教育の課題としては、時間割の構成で、45分授業と50分授業のチャイムを鳴らすタイミングなどの教育課程を組むところ、また、どういう一貫教育、小学校と中学校の交流をしていくのかということで、先生方に負担があったと思っている。最初の時点で、かなり綿密にマネジメントをしないとスムーズに進んでいけないということが課題であったと思っている。

小中一貫教育というのは、既に市内の小学校と中学校で交流を行っており、南小学校、南中学校においても、普段から小学校の先生と中学校の先生の交流は行っている。今後学校を建て替えるにあたって、何か新しいものを突然始めたり、今までやってきたことをいきなり全部変えるという訳ではない。南小中学校で行っている今の形を、もっとスムーズに交流しやすい環境を整えるという意味で、どういう方向性が良いのかということ、地域の方や保護者の皆様の意見をいただきながら、今進めている。

<質問>

北小中学校に通っている子どもたちは、何かデメリットを感じているのか。私は中学校に上がるときに、緊張感があって中学校に行った記憶があるが、そういったことがなくなる訳なので、子どもたちは、何か言っていたりするのか。

【回答】

子どもたちからは、特にはそういう声は聞いていない。

<質問>

南小学校は、私服が制服に変わったりするのか。

南小学校は今2クラスで、ただでさえプールの回数が少ないのに、小学校と中学校が1つになって、施設の取り合いにならないのか。部活動で中学生がグラウンドを使ってしまったら、小学生は放課後使えなくなってしまうのか。

【回答】

制服については、今南小学校は、制服ではないので、学校と保護者と教育委員会も含めて、どうすることが良いか、これから話し合う中で決めていけたら良いかと思う。私服の選択も、もちろん残っていく。中学校の制服についてどうするかは、今後、特に中学校の生徒さんの意見も含めながら、考えていく場を設けていきたい。

プールは、授業時数が決まっているので、十分調整は取れると考えている。体育館、グラウンドも、寄せて大きく場所を取るという形もあるので、児童・生徒の数と整合させて、考えていきたいと思っている。

現在、北小中学校では、小中学校で体育の授業が重ならないように、時間割を組む際には、まず体育の授業を入れて、そこから他の授業のコマを入れるようなことを考えて実施している。これは、小学校だけ、中学校だけでも同じで、まず授業がかぶらないように入れている。今も行っていることなので、今後も行っていけるかと思う。

放課後のグラウンドは、北小中学校では、運動場で行う部活動が野球部しかなく、グラウンドの半分を野球部が使い、その後の半分を小学生が放課後を使っている。

<質問>

壱分西、小瀬町、小平尾町を調整区域に今検討されているということで、この想定人数というのは、アンケートなど事前調査による結果等に基づいているのか。各家庭で決めて希望を出されていくことになるかと思うのだが、最終的には現在の校区のまま希望を出される方が大半であれば、調整区域の設定してもあまり意味がない、中学校に来られる人数、小学校に来られる人数があまり大きな変化がないと思うのだが。

【回答】

小瀬町については、現在、基本的に校区は、南小学校になる。ただ、小学校には隣接校選択制があり、小瀬町の中でも壱分小学校が近いので、壱分小学校に通っている子もいる。その子たちが、中学生になる

と、大瀬中学校に行くことになるが、小学校は南小学校だけど、中学校は大瀬中学校に現在行ってる子たちが19人ぐらいいる。調整区域を設定することで、その子たちは、大瀬中学校に行かず、南中学校が近いので南中学校に行き続けることが可能となれば、その19人は増えるだろうというのが、小瀬町の部分での計算になる。

壺分西は、10人ぐらいが、壺分小学校、大瀬中学校に通っている。壺分西からは、勾配もないし、南小中学校に行きたいと思う方が多くなるのではという話を聞いている。この壺分西の10人ぐらいは南小中学校に来ていただける試算をしている。

<質問>

今、北小中学校で野球部しか運動場を使わないというのは、小学生と中学生が共存する意味では良いのかもしれないが、中学生の生徒にとって、部活動の選択肢がとても少ないのではないか。この南中学校でも同じような問題が出てくるのではないかと不安である。

【回答】

建物を1つにしていくか、また2つにするか、そういった観点の話を今検討してるところで、ここでの学校敷地で考えていくと、体育館が例えば1つになると、有効面積が広がる。校舎の建て方、体育館をどこに配置ができるかという配置計画によって、有効面積の取り方が変わってくると思っている。現状よりも、当然広がると考えているところである。

部活動についても、現状も踏まえて、どんな形が一番子どもたちにとって良いのかを考えて、今後進めていくことになる。

<質問>

今小中一貫で話を進められていると思うが、今のまま、小学校は小学校、中学校は中学校のままという状態では駄目なのか。あまり小中一貫に魅力を感じない。小学校は6年生で、中学校に行くときに、また新しい先生に出会って、新しいクラスになって、今までの友達と別れて、という環境の違いも大事だと思う。もし小中一貫になったら、1年生から9年生まで同じ場所で学んで、9年間安心して過ごしていたところから、ある程度大人になってきてはいると思うが、高校生になったときに、急に3年間違うところになり、気持ちの切り替えができなくて、つまずいたりすることもあると思う。だから小中一貫にされると聞いて、なかなか納得がいかない。

【回答】

小中一貫にするために施設一体にするというよりも、今行っている交流を、学校が離れている先生方が打ち合わせするために、どちらかの学校へ移動して話をすること、子どもたちも連携するために向こうの学校へ行くということを、もう少し交流しやすいようにする、ということで考えている。小中一貫になるからといって、小・中学生が常に一緒にいるという形ではなく、フロアを分けたり、校舎を通路で通れるようにして、小学校と中学校を分けるという考え方もある。これから設計していく上で、どういったものが良いのかということ話し合いながら進めていけたらと考えている。

それと、6年生から中1になるときの中1ギャップで、不登校になるお子さんが、全国的に多い。このつ

まずきをなくすために、今あるハードルがすごく高くて行けないという子どもたちのために、平坦にするというよりも、少しでも低くする、完全に小学校と中学校を別にして、すごく怖いとこへ行くというイメージへの不安を和らげるという意味でも、日頃から常に交流しながら、気持ちを切り替えて、中学生になれるという、より関係性の近い環境の中で子どもたちを育てるという施設のイメージであると思っていただけたらありがたい。

<質問>

今まで、徐々にやりながら決めていくということと、まだ何も決まっていないという言葉、何回も聞いてきたが、どんな教育を目指してるのかということが一番大事で、建物やグラウンドの広さが先ではなく、良い教育と言っているが、それが何なのか、具体的に全然わからない不安がある。

特に何も変わらないですと話されたが、子どもたちと先生方にとっても、とてもすごいことが今起ころうとしてると思っている。南小学校、南中学校って名前は残るかもしれないが、全然違うことが始まる、今までと一緒にないだろうと思う。特に変わったことをする訳でもないから、大丈夫ですと話されるが、なぜ校舎を1つにして、なぜ小中一貫1年生から9年生までの教育をする必要があるのか、そもそも9年間の見通しなんて立てられるはずがないと思っているので、小中一貫教育は反対、絶対やめていただきたいと思っている。子どもの様子は、毎日変わるし、保護者は、自分の子どもを育てるだけでも大変なのに、学校に何十人も子どもが来て、見てだけではなく、授業を進める、そして行事に参加して、決められたところまで学習の成果を上げていかないといけないという先生方の仕事が、大変なことになっていて、離職していく先生や休んでおられる先生もすごく多いということも、しっかりと考えていただきたい。施設が1つだと先生方の連携が取りやすいと話されたが、別に校舎が1つでなくても連携は取れるし、子どもたちのギャップを取り除いて、よりスムーズに中学生になれる、でもメリハリはちゃんと持っているという、すごく高度なことを子どもに求めている気もする。全国的にも、今不登校が多い学年は、3年生が一番多いと言われている。中1ギャップ、小1プロブレム、そういうつまずきを、そもそもなぜ取り除くのか、その理論は何の根拠もないと文科省も言っているし、どれだけの保護者がそれを望んでいるのか。保護者の考え方はいろいろだと思う。つまずきを積み重ねて社会に出て行って欲しいという考えもあると思う。

【回答】

突然こんな話という印象を持たれている方もおられるし、そもそも小中一貫の取組とはどういうことなんだということで、各学校での様々な取組を、いろんな機会を通じて保護者の方にお伝えしている。施設一体型になったときに、何が違って何が変わらないのかというところは、すごく心配されているところだと思う。言葉の表現って非常に難しいと思うのだが、メリット・デメリットという言葉、北小中学校の話や王寺北義務教育学校に行ったときに印象的だったのが、校長先生も町の教育委員会の方もメリットしかありませんということはいち切られた。その理由は様々な話の中で話されたが、南小中学校も、新しいことをしていく訳なので、何がメリットになって、何がデメリットになっていくのか、デメリットが想定されるのであれば、どうすればそのデメリットを改善していけるのかということ、これからいろいろと考えていかなければならない。

今、中3それから小3が、不登校が多い原因はコロナ禍だと言われている。中学1年生の入学、小学校1年生の入学のとき、2ヶ月間の空白があった。そこで子どもたちが、その新しい環境に順応していく、この

2ヶ月間が家庭学習ということで、実質6月からの始業になったってということ、また学校行事やいろいろな楽しいこと、給食は黙食になり、マスクをずっとつけて表情が見えない中での授業ということが大きな原因となって、今の中3、小3が、不登校が多いのではないかとされている。また、先日も全国で不登校24万人の発表があり、特に小さいお子さんの不登校、低学年化しているということも問題になっている。また、中学校になったときに、既に不登校で入学式にも来られないというお子さんもいる。同じ学校の中であれば、そのお子さんの小学校のときの様子、それから保護者との対応のプロセスが、全て同じ職員室の中で情報共有ができる。もっと言うと、中学校の先生が、小学校の5、6年生の授業に入ることによって、子どもにとって、全くの初対面ではなく、非常に心強くなる。保護者も、中学校の先生は誰に相談していいかわからない、非常に不安だということで、中学校に入ってから小学校に相談に来られる方もいる。すぐにその生活環境に順応できる子どもがほとんどだが、やはりそこにギャップを感じる、なかなか新しい世界に入っていきにくい子どもや保護者にとっては、相談できる先生が同じ学校の中にいることは、非常に自分の経験からも大きなことではないのかと思っている。文科省が小学校高学年の専科を進めていく上で、子どもたちにとっては学級担任だけではなく、いろんな先生に関わって教えていただくことで、人との関わり方や、教科の専門性の高い指導を受けることができる。この南小学校も、2年生のときから専科がはじまり、学年が上に行くに従って、専科の先生の間も非常に多いということも聞いている。中学の先生は、より専門性を持っている先生方が多いので、そういう先生方が職員室にいて、例えば音楽の授業どうしたらいいか、体育どうしたらいいかということを経験者が共有して、指導に生かしていけるということが大きなメリットではないかと思っている。

それから、教員のことを地域の方も保護者の方も、非常に心配していただいている。働き方改革にとって、どうなんだろうということ、はっきり言って、今北小中学校は、非常に先生方の環境も恵まれている。北小学校の先生から、もうこの学校が大変で疲弊するから、他の学校に転勤したいという先生は1人もいないし、むしろ最大限居れる限りはこの学校に居たいという声も聞いている。反対に、次は北小中学校に行き一貫教育をやってみようという希望も非常に多い。そういう現状なので、特に小中学校にすることによって、先生方の負担が増えるとか、授業の持ち時間が多くなるとかということではない、ということはお伝えしておきたいと思っている。

南小中学校のこの施設も、いろんな改修の仕方があるので、このままが良いということが、保護者や地域の方の圧倒的な願いであれば、そういう方法もまたあるかと思う。でも、今の校舎で雨漏りしてるところをつぎはぎで修理をしていくことが、本当に子どもたちにとって良い教育環境を与えられるのか。また、このままいくと南中学校は、近い将来1クラスになる。今の北小中学校のように、部活動は野球部だけということも、中学校の人数が少なくなると、想定していかなければいけないという現実がある。だからこそ、本当に子どもたちにとって、最適な教育環境、教育内容を一緒につくっていき、この南小中学校であれば、小学校から中学校にこのまま行きたい、また、調整区域の方々が、是非南小中学校に行き、そこで学びたいという、そんな学校を地域や保護者の方と一緒につくってほしいという願いである。

<質問>

ずっと参加していて思うのは、小中一貫教育についての概念が、おそらく教育委員会と保護者の間で、ずれていると思う。教育委員会の方が言っておられるのは、連携の強化みたいな感じだと捉えているが、保護者の方は小中一貫が、王寺北のような9学年制ということになっている。それで1年生から4年生、

5・6・7年生、8・9年生というやり方について、かなり不安を持っているのではないかと思います。小学校は小学校で6年間、中学校は中学校で3年間、区切りをつけてやる、そういう小中一貫、校舎についても別々もあるだろうし、北小中学校の場合は2階と3階だが、南中学校で2クラスあったら、これを寄せる、そういうイメージが良いのではないかと考えている。それが、南小中学校も、王寺北に視察に行ったということは、そういう義務教育学校を考えてるのか、すごく不安に思う。小学校は小学校でけじめをつけて、中学校は中学校でけじめをつける、そういう協力体制を強める一貫教育の方向性なのか、王寺みたいな方向性は全く考えてないのか、その辺ははっきりしておいてもらいたい。

【回答】

生駒南小・中学校の今後を考える会議の中で、王寺北義務教育学校へ視察に行った。義務教育学校については、教育委員会の中でも、これまで議論がされていない。ただ、新しい施設で、新しい教育をされてるところへの視察ということで見ていただいたところである。

小中一貫教育だが、南小学校の方でも、中学校の先生が小学校の方に来て、小学校の子どもたちに教えているという状況で既に行っている。いわゆる義務教育学校というのは、例えば3部制に1年生から4年生、5・6・7年生と8・9年生というように分かれるのだが、小中一貫教育は、基本的に1年から6年生、それから中学生は1年から3年生というところでのプログラムは分かれていく。ただ、その中で、例えば中学校の先生が小学校の5、6年生を教えるとか、体育の専科を教えるとか、小学校に中学校の先生が入ることによって、1人で見ていた授業を2人で見るができるというような、大きな教育効果があると考えているところである。建物についても、1つの建物にするか、例えば2棟建てて小学校と中学校を渡り廊下でつなぐような考え方もある。これについては、また皆様の意見をいただきながら、どういったものが一番この南小中学校にとって良いのかというのを検討しながら進めていきたいと思っている。義務教育学校が急に始まるかという、教育委員会の中でもまだ議論されていない。今後、義務教育学校が、全国的にどういう状況で増えていくか。そして、生駒市でどのように導入をしていかなければならないのかということは、検討していかなければならないところである。

しかし、小中一貫教育に関しては、既に市内で進めている学校もあるし、教育委員会の中でもその教育については、進めていこうということになっている。小中一貫教育の進め方として、建物をどうしていくかということ考えていただければと思っている。

<質問>

意見を聞かせていただけたらと、先程から何回も話されているのだが、意見を伝える機会が、今日説明会に参加して、アンケートをここで配られて、参加者が送信する形である。今回、学校を通じての説明会の案内で、参加できることになったのだが、今日の説明会へ行きたいと思っても都合が悪かったり、子どもを家に置いておく訳にいかないからということで、出向けなかった方もたくさんおられると思う。そういう方々の意見が集まる機会、こうやって参加しないと意見が言えない、自治会の代表の方に伝えないといけないとか、すごくハードルが高くて、意見があるのだが、どういう方法で伝えたらいいのか、言いたいと思いつながら、仕方ないからあきらめている方もいると思う。今ここだけでもたくさん意見があったので、保護者の方、実際に通う方の意見をもう少し集める機会を、メールなども利用した、ちょっとした隙間に意見を伝えることができるチャンスをいただけたらと思う。

【回答】

今回の説明会で終わりということでは全くないし、必要であれば、小学校だけの説明会、中学校だけの説明会、またこども園の説明会と分けてすることもできる。ただ、一方的にアンケートだけを取るということは難しいと思う。今日来ていただいた方に対して、説明をさせていただいたことに、どう意見や感想をいただくかという、総合的なことだと思うので、要望があればお答えできるような機会は、しっかりとつくっていきたいと思う。基礎設計、基本設計、実施設計という難しい言葉が出てきたが、まだこれからそれらを組み立てていく段階なので、しっかりと皆様方の意見をいただきながら、教育委員会の方でも協議を進めていきたいと思っているし、その協議の内容もホームページを通して皆様方にお知らせする、今回もアップデートできたというような連絡や資料がご覧いただけるという案内を積極的に進めていきたいと思う。

<意見>

校区のことで、調整区域のことを保護者の方に聞いたのかという質問に、こういう環境であればきっと来てくれるだろうと予測を立てられたと思うのだが、やはり先程のアンケートの意見もそうだが、保護者の意見を聞くということがまずなかったことに疑問を感じている。資料にあるスケジュール表も、具体的に決まっていなかったにしても、初めは保護者向けの説明会が書かれていなかったもので、すぐに説明会をするようお願いしに行って、周知の徹底についてもお願いして、今日の説明会にこぎつけたという感覚を持っている。アンケートについても、説明会等で話し合いをした上でのアンケートでと話されるが、今、生駒市がこのような教育が良い、このような教育方針でいきたいということすら知らない保護者の方が多いので、今このようなことを進めているということに対するアンケートを取ったり、今までの話し合いの情報も、もっと保護者にも伝えていただきたいと思う。

それと、北小中学校の小中一貫と南小中学校の小中一貫、子どもの数の規模が2倍ちよつとぐらい違うと聞いた。その2倍というのが、10人が20人の2倍じゃなくて200人が400人とか、そういうレベルの話なので、部活動も1つだが、資料の見通しの人数を見ても2クラス、現状維持みたいな感じのところまで止まっている。だから昔の状況とそんなに変わらないのではないかと考えている。どんどん部活動が増えて、いいねっていうふうに、そんな簡単な問題ではないと思っている。

次に、12月25日に地域の方向けの説明会を予定されている。今日来たかったけれど無理だったという人を結構聞いているので、今日来れなかった保護者の方、本日参加した保護者の方への連絡をまた回して欲しい。

<質問>

小中一貫の校舎ができる段階で、例えば運動場とかプールというような問題が出て、小学校でも低学年と高学年とは、プールの水の深さが違う。水を抜くとか、また水を入れるとかの調整をするのだが、今度は中学校と小学校が1つのプールを利用し合うのに、上手くいけるのかどうか疑問がある。そういうことを抜きに、プールは1つですと言われても、そんなことで子どもたちが安全にできるのかという問題と、それから休み時間に子どもたちが遊べるのが、学校に来ている1つの楽しみでもある。その遊び時間が十分に保障されるのか、放課後も部活動をやっているから、思うように遊べない。仮にこの地域の学校を想定してみたときに、果たして子どもたちがのびやかに遊ぶ時間が保障できるのか。いろいろな疑問が湧いてくる。

【回答】

学校の建て替え等では、様々なことが、やはり課題となってくる。そういう課題を一つ一つ丁寧に解決をしていかなければならない。ご心配いただくことは、当然のことだと思っている。そこを、現実に近づけていくような形で進めていこうと考えている。

今日は、保護者の方向け説明会ということでやらせていただいたが、地域の方向けに、12月25日に南コミセンで予定しているので、またそちらにも参加いただければと思う。